



三弦

歴史と特色

三弦は通称三味線とよばれ、邦楽や民謡に欠かせない民族楽器として、芸能遊芸の盛んな金沢に受け継がれているもので、藩政時代東・西・主計町の花柳界を中心に発展した。金沢で製造され始めた年代は明らかではないが、文久2年(1862年)作の三弦が現存している。昭和初期をピークに戦前は玄人が主であったが、戦後は邦楽の普及や民謡ブームのため素人にも広まり需要は増加してきている。

規格品であきらめない演奏者の高級品を求める声もあるが、あくまで音色が重視され、義太夫、常盤津、清元、地唄、長唄、民謡と多種多様の需要に対応できる高度な技術保持者は少なくなってきている。材料は固い木がよく、棹の最高級品はインド産の紅木、次いで紫檀、果林である。胴はすべて果林を用い、皮は猫又は犬の皮を用いている。

歴史與特色

三弦也被稱為三味線，傳承在文娛技藝盛行的金澤，是一種民族樂器。在封建時代，以三茶屋街為中心發展起來，現存最古老的三弦是製作於1862年。三弦琴竿的材料是印度產的紅木，紫檀，木梨等堅硬的木材，琴身的材料使用的是木梨樹。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)
主な製品名(主要産品名)	三味線(三味線)
主な生産者(主要生産者)	福島三弦店(福島三弦店) 〒920-0831 金沢市東山1-1-8(金澤市東山1-1-8) TEL (076)252-3703 安田琴三弦店(安田琴三弦店) 〒921-8031 金沢市野町2-2-32(金澤市野町2-2-32) TEL (076)241-1423



歴史と特色

慶長14年(1609年)加賀藩主が播磨から革細工の名人と言われた佐衛門五郎を金沢に招いたのが始まりと言われている。加賀藩は外様大名であったため、武芸より文化芸能に力を入れたことで、軍事用の外、能楽、雅楽、神事、仏事、祭礼用の楽器として太鼓の需要が多かった。明治以降も順調で、昭和初期には県内で10軒程度が製造していたが、第2次世界大戦中1軒に整理され、現在も伝統技術を伝えている。原木のケヤキ、セン等の乾燥から始める一貫作業で、皮の処理に昔ながらの技法を用いることや、霊峰白山より流れる手取川の水質がよいため、皮が丈夫で音が良いことで全国に知られている。特に、胴の長さ2.5m、皮の直径2m以上の大太鼓も製作し注目を集めている。

歴史與特色

加賀藩因在文化藝能上投入了大量的財力物力，作為能樂、雅樂、神事、佛事、祭祀用樂器——太鼓的需求很高。加賀太鼓因皮質結實音質優良而廣為所知。不僅如此，甚至還製造出長達2.5米，皮的直徑達2米的大太鼓，非常引人注目。

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	白山市(白山市)
主な製品名(主要産品名)	長胴太鼓(長胴太鼓)
主な生産者(主要生産者)	(株)浅野太鼓楽器店((株)浅野太鼓楽器店) 〒924-0051 白山市福留町587-1(白山市福留町587-1) TEL (076)277-1717

太鼓